



すわっ子だより

子どもたちの成長を願って

校長 川添 倫義

朝、登校する子どもたちを正門で迎え、あいさつを交わしています。ある時、「おはようございます」と笑顔で元気に声をかけてくれる子どもたちに、何かお返しできないかと考え、ハンドパペットをつけてあいさつするようになりました。「今日のお人形は〇〇だね。」「私も同じもの持っているよ。」など、あいさつに一言が添えられるようになり、さらにコミュニケーションが増えました。

先日、校長室の入り口に季節の飾りつけをしました。季節に合わせて変えていこうと思っています。子どもたちや来校者の方々に季節を感じていただけると幸いです。

以前、ある場所の軒下にツバメの巣があり親ツバメが何度も何度もえさを運んできて、ひなに与えていました。ちょうど5月は、鳥のひなが卵からかえり巣立っていく時季です。私の自宅の角に植えている月桂樹の枝に、小さな手作りの巣箱を置いています。毎年この時季になると、幼鳥がエサをおねだりする鳴き声や一日に何十匹もエサとなる虫を運ぶ親鳥が飛び交う様子が見られます。5月10日～16日は、「愛鳥週間」です。野鳥が人間の生活に大きな役割を果たしてくれていることに感謝をして鳥を大切にしようという、アメリカの運動が始まりだそうです。例えば、シジュウカラ一羽で、年間12万5千匹もの害虫をとってくると言われています。スズメは、メヒシバ（雌日芝）などの雑草の実を一度に2百から4百粒も食べて雑草が増えないようにしてくれているそうです。この二つの例から考えてみても、もし野鳥が少なくなったらどうか。雑草は増え、樹木は害虫によって枯れやすくなってしまいうでしょう。

東岩槻小は桜山中学校とともに、学校運営協議会の協働活動として登校時に児童・生徒・地域の方々・教職員等で「笑顔の架け橋あいさつ運動」をしています。その取り組みでない毎日の登校時も、あいさつボランティアの方々が毎朝正門で子どもたちを迎えてくれています。

小鳥の鳴き声でさわやかな目覚めのときを迎えたいものです。そして、あいさつを交わし、元気な一日を過ごしたいものです。